【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】令和5年2月24日(2023.2.24)

【公開番号】特開2022-77958(P2022-77958A)
【公開日】令和4年5月24日(2022.5.24)
【年通号数】公開公報(特許)2022-091
【出願番号】特願2021-137461(P2021-137461)
【国際特許分類】
*Ｈ０１Ｒ 13/631(2006.01)*
*Ｈ０１Ｒ 4/48(2006.01)*
*Ｈ０１Ｒ 12/91(2011.01)*
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｒ 13/631
Ｈ０１Ｒ 4/48 Ｃ
Ｈ０１Ｒ 12/91

【手続補正書】
【提出日】令和5年2月15日(2023.2.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
（５）前記弾性部材は、相互に隙間を隔てて対向配置された一対の平板部と、前記一対の平板部を連結する連結板部と、を有し、前記弾性部材は、一対の前記平板部によって、接触している状態の前記第１電気接触部と前記相手方電気接触部とを互いに接触している方向に挟持可能である、ことが好ましい。これにより、コネクタの一層の構造の簡素化を図ることができる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９２】
（４）上記（３）において、前記弾性部材が、相互に隙間を隔てて対向配置された一対の平板部と、前記一対の平板部の第１側縁部同士を連結する連結板部とを有する板ばねクリップによって構成されており、前記板ばねクリップは、前記一対の平板部間に前記第１電気接触部が挿し入れられて、前記一対の平板部の一方が前記第１電気接触部の底面に重ね合された状態で、前記第１電気接触部に組み付けられており、前記相手方電気接触部が前記一対の平板部の間へ挿し入れられて前記第１電気接触部に重ね合わされるようになっている、ことが好ましい。これにより、板ばねクリップを利用して弾性部材を設けることができる。しかも、板ばねクリップを第１電気接触部に組み付けるだけで、弾性部材を第１電気接触部の変位に伴って変位可能な状態で第１コネクタハウジング内に収容する構造を構築することができる。それゆえ、コネクタの一層の構造の簡素化を図ることができる。